

平成 23 年度第 1 回鳥取市政懇話会

日 時 平成 23 年 11 月 22 日（火）

午前 10 時～11 時 30 分

場 所 鳥取市役所本庁舎 6 階

全員協議会室

出席者 清水昭允会長、山口朝子副会長、安養寺幸男委員、稲垣晴雲委員、今川登委員、下石義忠委員、川上一郎委員、田中仁成委員、谷口博繁委員、塚田武志委員、中西重康委員、西山徳枝委員、廣澤咲委員、山根康穂委員、吉儀圭介委員、吉田茅穂子委員、吉村あけみ委員（3 名欠席）

○松下企画推進部長 ただいまから、第 1 回鳥取市政懇話会を開会いたします。

開会に当たり竹内功鳥取市長がごあいさつ申し上げます。

○竹内市長 新しいメンバー 20 名で鳥取市政懇話会をスタートさせていただくことになりました。10 名が初めて参加されるということです。今日は 17 名の御出席、大変ありがたく思っております。

今回のテーマは、鳥取市政にとって百年の大計と言える大きな課題である、市庁舎の整備の問題です。昨日も広島県北部の三次あたりで震度 5 弱という地震がありました。いつどこで、どんな大きな災害が起こるかわからないと。今年を振り返っても、年末年始の大雪から始まって、3 月 11 日の東日本大震災、台風 12 号、15 号と日本全体、また鳥取にも大きな被害をもたらしました。

市庁舎の整備は、鳥取市の防災体制の強化の一環であるとともに新しいまちづくりの展開につながります。これは、これを契機に民間の投資も含めて中心市街地の新しいまちづくりが進むであろうということもありますし、鳥取市全体の、総合支所の地域などを含めた多極型のコンパクトシティという考え方をさらに充実、発展させていきたいと思っております。

もう一つのポイントとしては、地域経済の活性化です。これは、深刻な状況にある雇用の問題、景気回復を、鳥取の地域としてどのようにやっていくのか。内を固めて外に打って出るというのが私の 3 期目の選挙に当たっての主張でありました。内を固めるということ、つまり安全安心な町をつくり、地域の特色をそれぞれに磨きをかけて盛り上げていくと同時に、外に向かって情報発信し、あるいは出向いていって、鳥取の魅力や経済が発展する方向を考えていくということでもあります。この内を固めるところが庁舎の問題に深くかかわっておりますし、内需拡大を図って、雇用をふやしたり若い人の定住を図ったりということに庁舎の問題を位置づけていきたいと考えております。

単に庁舎の耐震化といった狭い視野で考えるのではなくて、防災体制の強化やまちづくりの展開や地域経済の活性化、そういったことも踏まえてこの問題を大きくとらえて、

今まさに我々の手で力強く前進させなければいけないと思っているところです。

今日は皆様から忌憚のない御意見をいただき、庁舎建設やこの問題の進め方などについてお話をいただければと思います。人数も少しコンパクトになりましたので、これからは分科会を設けることなく、全員が顔を合わせ、市の幹部も同席できるようにしていきたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

○松下企画推進部長 ありがとうございます。

それでは、今回が新しい委員さんの初めての会でございますので、自己紹介を一言ずつよろしくお願いいたします。

○安養寺委員 安養寺でございます。この市政懇話会でずっと市役所さんに提案提言をさせていただきましたが、もうしばらく続けさせていただきたいと思って、再度応募いたしました。

私は昭和一けたの生まれでございますので、きっと最高齢だと思いますが、現在、県の後期高齢者の医療審議会の委員を現任しておりますし、過去では県の高校教育審議会の委員、あるいは八頭高の同窓会長を 26 年間、関西大学の教育後援会の相談役 30 年などを経験しております。最後は 68 歳まで鳥取大丸の役員を続けておりました。特に市役所の移転は駅前の方という御提案でございますので、元気のいいころの大丸を思いながら、特に関心を持って提案・提言などをさせていただきたいと思っております。

○稲垣委員 稲垣晴雲でございます。私は高校の書道教員をずっとやっておりまして、現在も書道家として活動しております。鳥取市文化団体協議会の副会長をしております。

○今川委員 鳥取市の自治連合会の今川といいます。

○下石委員 下石義忠と申します。鳥取市社会福祉協議会でお世話になっております。

○川上委員 川上と申します。県の OB で、退職後農協中央会、そして今は鳥取県農業会議の会長を務めさせていただいております。

○清水委員 清水昭允といいます。株式会社清水と千代エンジニアリングという企業を経営しております。それから、鳥取商工会議所、鳥取法人会の会長をさせていただいております。

○田中委員 日本海新聞に勤務しております田中と申します。

○谷口委員 谷口博繁と申します。今変わらんとしている鳥取環境大学に勤めております。

○塚田委員 塚田と申します。鳥取市国際観光推進連絡会の会長の立場で今回出席させていただいていると思いますが、本職は農協観光鳥取支店の支店長をさせていただいております。また、日本旅行業協会の事務局、ゆるキャラカップの実行委員会の委員長もさせていただいております。米子出身ですが、鳥取市は最初の赴任も含めて 20 年住んでおり、子どももみんなこちらで大きくなりましたので、第二のふるさとと考えております。

○中西委員 中西と申します。商工会連合会の方にお世話になっております。また、私は砂丘の砂像を非常に期待している者でございますので、来年の春の砂の美術館オープンを

期待しております。

○西山委員 西山でございます。私は生活研究グループ連絡協議会で20年来活動してまいりましたし、現在、アフトピア協会の会長もしております、お世話になっております。女性の分野での参加となっております、女性の問題は随分と幅広いので、責任重大だなと思っております。

○廣澤委員 鳥取大学地域学部地域文化学科3年生の廣澤咲です。鳥取生まれ鳥取育ちで、鳥取が大好きなので、将来も鳥取に就職したいなと思っています。

○山口委員 山口でございます。鳥取市の教育委員をさせていただいております。常日ごろは、本通りのスペース Comodo、保育所まちなか保育園「Comodo 園」で日々子どもたちと一緒に過ごしております。

○山根委員 社団法人鳥取青年会議所理事長の山根康穂でございます。私たち鳥取 JC は、20 歳から 40 歳までの青年経済人が集い、日々明るい豊かなまちづくりを目指し、まちづくり、人づくりに励んでおります。現在は、まちづくりのローカルビジョンとして、「環光（かんこう）のまち因幡」推進運動といった取り組みをしております。これは自然環境、また環境保全活動に着目して、我々のすばらしい自然資源をどんどん世界、また日本に生かしていき、経済へと好循環させていこうという取り組みです。まさに、地域経済の発展を国づくりとなるように邁進してまいりたいと思います。

○吉儀委員 鳥取環境大学環境政策経営学科の吉儀圭介です。鳥取のことをもっとよく知っていきたいと思います。

○吉田委員 私は日本画をこつこつと書いておる日本画家でございます。吉田茅穂子と申します。このたび山陰海岸ジオパークを海から眺めた景色を本にして出版いたしました。私の両親の出身地であるこの鳥取をこよなく愛し、鳥取県と鳥取市が同時に発展していくことを心から願っておりますので、こういう仕事をいたしました。やはり鳥取市の発展ということが一番大きな目的でございますので、文化、経済、そして人の流れの豊かなそういう鳥取市になっていけばと思っております。

○吉村委員 吉村といいます。私は鳥取市生まれで、この市役所の近辺の出身でございます。縁あって気高町に嫁いで40年たちます。新市の地域審議会で、地域の課題を一生懸命みんなと一緒に考え、また鳥取市との融合をどのようにしていくかということも考えながら、話し合いをしております。福祉の分野にも携わらせていただいておりますので、地域密着ということで、いろんな形でお話をさせていただけると思っております。

○松下企画推進部長 それでは、会長、副会長の選任に移りたいと思います。本会の会長は鳥取市政懇話会条例第5条第1項に基づき、互選により御選出いただくこととなっております。まず、自薦、他薦等いかがでしょうか。

ございませんので、事務局に案がございます。申し上げてもよろしゅうございますでしょうか。（拍手）それでは、会長を鳥取商工会議所会頭の清水昭允様をお願いしたいと思いますのですが、いかがでしょうか。（拍手）ありがとうございます。

では、会長に選任されました清水様は、前の方においでください。

それでは、続きまして、副会長の選任でございます。鳥取市政懇話会条例第 5 条第 3 項に基づいて会長が指名することとなっております。清水会長より副会長の方を御選任いただきたいと思います。

○清水会長 それでは、山口朝子さんをこのたび副会長にお願いしたいと思います。いかがでしょうか。(拍手) ありがとうございます。では、山口さん、よろしくお願いします。

○松下企画推進部長 それでは、山口様、前の方にお進みいただきたいと思います。

それでは、会長に選任されました清水会長からごあいさつをいただきたいと思います。

○清水会長 このたび市政懇話会の会長に選任されました。皆さんの御協力によって円満に、中身の濃い会を進めさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

○松下企画推進部長 どうもありがとうございました。

続きまして、山口副会長、一言ごあいさつをお願いいたします。

○山口副会長 山口でございます。このたび副会長ということで本当に緊張しておりますが、清水会長初め、皆様方の御指導を賜りながら務めさせていただこうと思っておりますので、どうぞ御指導のほどお願い申し上げます。

○松下企画推進部長 それでは議事に入ります。鳥取市政懇話会条例第 2 条第 2 項の規定により、議長は会長が務めることとなっております。これ以降の議事の進行は、清水会長にお願いします。

○清水会長 それでは、5 の協議の、(1) 鳥取市新庁舎建設計画(素案)について、ビデオを初めに見ていただいて、後から説明を受けるということで進めさせていただきたいと思います。では、事務局にお願いします。

○亀屋庁舎整備局長 庁舎整備局長の亀屋でございます。最初に鳥取市の新たなまちづくりについてということで、ビデオを 6 分間ほどごらんいただきます。

[DVD 上映]

鳥取自動車道の全線開通に伴って、鳥取市の商圏人口は今後 35 万人規模に達する見込みです。さらに、世界初の「砂の美術館」の誕生、山陰海岸ジオパークの「世界ジオパークネットワーク」への加盟、鳥取環境大学の公立化と経営学部の増設など、鳥取市は今、成長、発展の機運が高まっています。しかし、それらの受け皿となる鳥取市はさまざまな課題を抱えています。

鳥取市の人口は、少子化に若者の県外流出も加わり、平成 17 年の 201,740 人をピークに減少に転じ、10 年後にはおよそ 19 万 3000 人になるものと見込まれています。郊外への人口流出と郊外型店舗の増加などが重なり、中心市街地の商店が減少傾向にあります。また、10 年後、65 歳以上の人口がおよそ 3 割となる超高齢社会を迎えると、自家用車の運転ができる方は減少してきます。

東日本を襲った未曾有の大災害は、私たちにも警鐘を鳴らしました。鳥取市でも昭和 18 年に大震災が発生し、1,200 人以上の尊い命が失われています。

さまざまな課題を解決し、今こそ安全安心な暮らしと魅力あるまちづくりを実現しなければいけないのです。その核となるのが、多極型コンパクトシティです。これは、一極集中型ではなく、中心市街地と地域生活拠点、そして、そのほかの地域も含めた鳥取市全体の発展を目指す計画です。

中心市街地では、都市構造を踏まえた市街地機能を強化し、コンパクトな市街地を目指します。各総合支所の周辺などの地域生活拠点では、日常生活に不可欠な機能の充実強化を目指します。また、中山間部では、自立した地域コミュニティーを維持するための施策や、山林、農地が持つ機能の維持、保全を進めます。そして、便利で効率的な総合公共交通システムの構築により、鳥取市の交通ネットワークを充実させます。中心市街地と地域生活拠点、そして、そのほかの地域がともにあり、活力と魅力ある鳥取市へと再生できるのです。

もう一つの課題を解決する計画が、災害に強いまちづくりです。東日本大震災を教訓に、災害に備えて地域防災計画を見直し、小・中学校施設や各地域の防災拠点の耐震対策など、鳥取市全域で災害に強いまちづくりを進めています。その中でも災害発生時に対策本部としての役割を果たさなければならない市庁舎の防災機能の強化は重要な課題です。現本庁舎を耐震補強でとりあえずしておくことは可能ですが、いずれ建てかえなければいけません。今なら有利な財源である合併特例債が活用できます。大きな災害が起きてからでは間に合いません。災害に強い庁舎が今、必要なのです。

超高齢社会の到来に備えるためには、駅周辺地域に人が集って交流し、魅力あふれる街「鳥取 OASIS」の創造を基本理念として、再生を目指します。例えば、庁舎の移転も、人、物、情報の行き交う駅周辺の再生も一つです。交通の結節点である鳥取駅の近くへ市庁舎を移転することで、だれもが便利に市役所を訪れることができ、敷地が広く自動車で来庁する方のために広い駐車スペースを確保できるとともに、災害時の緊急車両や物資などの受け入れが容易になります。また、新庁舎建設後、跡地となる現本庁舎などの敷地を活用し、鳥取城跡周辺地区の特性を生かした魅力あるまちづくりを実現します。

市庁舎の移転新築は、建設自体が地域へ還元される大きな公共投資であるとともに、新たな民間投資を呼び込み、雇用の拡大をもたらします。鳥取市の抱えるさまざまな課題を解決に導くための多極型コンパクトシティの実現、未来を担う子どもたちのために負担と不安を先送りしないまちづくりを、今こそ一緒に進めてまいりましょう。

○亀屋庁舎整備局長 ただいま紹介したビデオの内容は、お手元の「今こそ活力と魅力あるまちづくりを」というパンフレットにまとめておりますので、後でご覧ください。

鳥取市は現在、庁舎整備、現本庁舎周辺の地域の活性化、駅周辺再生ということで、新たなまちづくりを展開していこうと取り組んでおります。

鳥取市役所の庁舎は平成 20 年に耐震診断を行い、大地震が発生した場合には崩壊または倒壊するおそれがあるという結果が出ました。そのため、庁舎整備についての基本方針を今年の 3 月に出し、現在基本計画を策定するという段階になっております。

資料の鳥取市新庁舎基本計画のあらましをご覧ください。この基本計画は10月に作成しました。市民に質の高いサービスを提供する「機能性」、災害時には対策本部として十分な機能を発揮する「防災」、市民が親しみとぬくもり感じる「交流」、地域経済の活性化による「まちづくり」、「環境」に優しい庁舎の実現、貴重な財産となる「長寿命」な庁舎長寿命という6つの基本理念を基本にしています。

建物の概要、配置計画ですが、市立病院跡地の西側に一般駐車場、東側に庁舎ということで、国道53号に面したところに庁舎が来ます。鳥取駅から直線で300メートルといった位置になります。建物につきましては6階の中低層、延床面積は2万3500平方メートルで、駐車台数は大体200台確保します。現在7つの建物に分散している本庁機能を統合し、3庁舎体制とします。窓口業務は新庁舎に統合し、さざんか会館にある保健センターの健診業務は駅南庁舎に移し、福祉の充実を図ります。下水道庁舎は耐震化がなされており、残したままとします。

建設費は約72億1000万円、設計監理費は約2億7000万円、合計74億8000万円と概算しております。免震、一般耐震、制振といった方法のうち、一番多く費用がかかる免震構造で積算しております。現本庁舎、第2庁舎の解体には別途4億3000万円という経費がかかります。

財源は、事業費の95%を合併特例債の対象として適用でき、約69億8000万、国庫補助金が約7000万、それから地域振興基金から約4億3000万を活用することで考えております。合併特例債を適用した場合、国から7割の補助が受けられます。借入金が約69億8000万で、利息がつくと約82億。実質的な返済額はその3割の24億6000万。これは20年償還になり、1年当たり約1億2000万ということになります。この7割部分については交付税措置で翌年度以降20年間かけて国の支援があるという形になります。

施工、維持管理をそれぞれ分離発注し、施工に関しても建築等専門工事を分離発注していくことで、より地元に発注しやすい方式を考えております。設計者選定は、プロポーザル方式で考えております。

事業スケジュールは、今年度基本計画を現在取りまとめ、24年度は基本設計、実施設計、それを踏まえて25～26年度に工事にかかり、27年3月完成を予定しています。

○楠本中心市街地整備参事 都市整備部中心市街地整備課の楠本と申します。

現本庁舎周辺地域については活性化検討委員会を設け、周辺地域の活性化方策の検討を進めているということです。これまで11回の委員会を開催し、ここで中間報告をまとめました。

地域の課題として、市域全体の22.9%より高い32.5%という高齢化、それに伴う人口の減少、小学校の児童数の減少という問題を抱えています。さらに、商店の減少、回遊性の低さという課題があります。これらの課題を解決し、20年後の本地域の目指す方向性ということで、2つの方向性というものが見えております。一つは、多様な世代が住む豊かな街なか生活の舞台。二つ目として、多様な歴史、文化、景観等の資源を有する、

交流の舞台。そういう方向性を踏まえ、庁舎移転後の跡地に必要な機能の一番目は、住民の日常生活を支える住宅、高齢者福祉、日常の買い物などの商業施設という機能。二つ目は、住民や来街者の憩いの場・交流の機能です。

最終報告に向けた今後の取り組みとして、この中間報告が11月18日に発表され、今後、これを広く市民の皆様に情報提供させていただいて、御意見を賜りたいと考えています。

もう一つ、鳥取駅周辺の再生の基本構想として、駅から北側へ向かう通路と、南側の方に向かう通路、その間に公共駐車場といったものを基本計画に位置づけて具体的に整備計画等を作成していこうと考えています。

○清水会長 それでは、これから皆さんの方に御意見を出していただきたいと思います。やはりこの本庁舎をどこにするかということが一番重要になるとと思いますので、今日はそれを中心にして御意見を出していただいたらありがたいと思っております。

○委員 私は河原町在住ですが、ほとんどのバスが、市内回りをしません。高齢者社会になると、私も当然免許証は返還いたしましたし、バス、汽車といった公共交通機関の利用頻度が多くなってまいります。そうすると、いったん鳥取駅までバスや汽車で出て、そこからさらに市役所へということになると、「くる梨」で回ると安いですが随分時間がかかるし、バスの案内所に行って次の日赤・県庁前は何時と聞いてもすぐには教えてくれません。一発で市役所に降りられるということであれば、やはり現在地よりも駅周辺。駅から300メートルなら杖をついてでも行けます。そういう面からも、市役所の新築移転に大賛成です。

○委員 駅周辺に庁舎を持つてくることに私も一応賛成ですが、賛成、反対、いろいろな方が今日もここにお見えだと思いますので、いろいろ御意見をお聞きしたいと思っております。

○委員 新市域の方は総合支所というものがあり、住民はかなりなじみがあります。先ほども多極型コンパクトシティということもありましたし、遠くの市役所まで出向かなくても、行政サービスは総合支所を充実させていただきたいと思います。新市の方は余り庁舎問題が話題に上ってきません。私たちが地域の中でどのように自分たちの生活を守り、不便なことをどのように行政でサービスしていただけるかということが課題かと思っています。余り市役所に出向くということはないのではないかなと、余り必要性を感じてないのではないかなと見ております。

○委員 私は、申しわけないのですが、市庁舎問題には余り関心を寄せてなくて、昨日、一昨日と一生懸命資料を読んだ程度でございしますが、まずは、耐震した場合のメリット、デメリット、それから、あちらに移転した場合のメリット、デメリットをもっとはつきりわかるように説明していただくとありがたいと思っております。

○委員 きょう僕はここに原付で来させていただいたのですが、恥ずかしながらちょっと道に迷ってしまいました。この場所は、他県や他地域から引っ越して来られた方にはわかりづらいと思うので、僕は新庁舎を駅の方に持つてくるのはとても賛成です。駅の方

に新庁舎を持ってくれば図書館も近いですし、もっとさまざまな人に利用していただけると思います。あとは、新しい市役所では市民が意見を言いやすいような窓口にしていったら、もっとよくなると思います。

○委員 私は検討会の方に出させていただいており、非常に興味深いところです。庁舎整備は、鳥取市民全体でも非常に関心の高い課題と思っておりますが、やっぱりこの庁舎整備によって、どのように地域が変化していくのか。経済の変動といったものが、まだ明確にされてないと思うわけです。経済ビジョンといったものも同時進行に進めていかないと、どのように鳥取市が進んでいくのかといった点が、なかなか具体策が出てないと思うわけです。例えば、多極型のコンパクトなまちづくりという点。こういったものが、ただ単に行政サービスを点で結ぶものか、あるいは経済活動の発信源になるのかという点、ここはまだ議論が足りていないと思っております。質問ですが、コンパクトなまちづくりの具体案はどういう形なのかをお聞かせください。

○清水会長 では、市当局の考え方をお願いします。

○竹内市長 まず、メリット、デメリットについて。現庁舎の課題は六つあって、耐震化、設備等の老朽化による経費の増、本庁機能が分散して市民の皆さんに御迷惑をかける、バリアフリー化の不備、狭隘な庁舎空間、駐車場の不足です。市庁舎を市立病院跡地に移転新築すると、災害対策拠点として充実強化、市民サービス向上、利便性向上、バリアフリー化、交通アクセスのよさ、自然エネルギーの活用、地域経済の活性化と雇用の創造、現本庁舎跡地利用による中心市街地のにぎわいづくり、こういったものが実現できるという考え方でおります。

また、7割の国の補助を活用できるということ。さらに、100億の建築投資で164億の地域の経済波及効果があり、1,400人の雇用創出が生まれるなど経済効果も大きいということがあります。

多極型のコンパクトなまちづくりですが、総合支所周辺の生活、地域生活拠点の充実とともに、バス交通のネットワークで結ぶということを基本の骨格としております。これは行政機能だけではなく、地域住民の皆さんの生活を支えるために地域で賄えるものは地域で賄ってもらい、中心市街地が役に立てる部分、大きな病院とかホテルとか、大きなショッピングの機会、そういうものは中心市街地を活用してもらおうということ。また、それぞれの地域が特色や魅力のある地域づくりをするということ。国府であれば歴史、気高であれば貝がら節やヤサホーパークを生かす。そういったことをそれぞれに活性化をすることで、鳥取市の全体としての魅力を高めるということです。総合支所だけで行政はできないので、本庁もしっかりしたものにし、連携をとって一体のものとして多極型のコンパクトシティというのを展開しようとしています。

○委員 今日資料が出されていることは一つの将来構想のもとに市庁舎が位置づけられておりますが、もう一つの対案は構想の中の位置づけが我々にはわかりにくいですね。

これから50年、100年先を考えると、駅南の方で新築移転がいいという一つの構想が

あってやっているのですが、対案の方は、将来の人口減少とか高齢化の進展ということに対して、現在の庁舎の位置がいいということがわかりませんので、これから選択と言われてもちょっと困ります。

現位置は、今から 40 年ぐらい前の人口とか人口動態とか、それから守備範囲、広さ、その中で位置づけられたものですので、これからのことを考えると、やはり広がった市の地域、鳥取県東部、その中での位置づけということが必要だと思っていますので、交通の結節点である駅南の方がふさわしいと思います。市役所に通う職員が公共交通で通われるということも出てくるかもしれません。

バリアフリーとかユニバーサルデザインということで、障害のある人も、あるいは目の悪い人でも使えるという方が望ましいと思っています。

○委員 新築について、方向性や機能性の面で考えると、恐らく反対する人はないと思います。問題は、耐震するか新築するかという比較論の中で、まだまだ市民全員に判断するだけの資料、材料が届いていないということだろうと思います。

例えば、「耐震改修をした後に新築するという二重投資を避けられる」「老朽化した庁舎の維持管理や改修費用の負担が回避できる」という説明がありますが、それぞれ具体的にどれくらいの額が必要なくなるのかが示されて、初めて比較論が出てくるわけです。

金額の面でも、1 年当たり 1 億 2000 万円と言われても、我々市民の感覚からすると、億円という単位は全く実感がありません。例えば 20 万人市民のうち成人が 12 万人だとすれば、1 人当たり 1,000 円。耐震の場合例えば 800 円かかるとする。ならば 200 円で新築の方がこれだけのメリットがありますよということであれば実感が出てくると思います。情報開示が十分されていないと、ひょっとして必要なことを隠してはないだろうかという疑問が出てきます。きれいごとばかりが進むので、住民の中でわからない、判断できないということになっていると思いますので、具体性のある説明をいただけたらありがたいと思っています。

○委員 市役所の新庁舎の問題が、二分されるような形で議論されているのが、本当に極めて残念です。鳥取市として将来にわたって生き残るために何をしなければいけないのか、何が必要なのかということを考え、丁寧に、しかも根拠がある話をすべきだと思います。もっと具体的に、新しい庁舎になったらこういうことをしたいという御説明をいただいて、賛否を乗り越える努力が必要だと思います。

ただ、駅周辺の基本構想の中でちょっと違和感を持ったのが、駅南庁舎がこの構想の将来像のイメージに入っていないのです。駅南庁舎には、例えば放送大学とか図書館とか、もっと南のさざんか会館のあたりは福祉のゾーンがあると思います。ここをどう生かすかということを、この白い地図の将来像のイメージの中に盛り込むべきではないのかなと。注文めいた話ですがよろしくお願いします。

○委員 私も地域の懇談会の中で、この新庁舎の建設のお話は聞かせていただきました。交通の接点である駅周辺に新しい機能ができるということには私は賛成ですし、私の地

域の方々も期待を寄せておられました。ただ一方で、耐震化をやって、施設設備もここで更新して、ここで現庁舎を改造したらいいではないかという方がいるのなら、これぐらいの負担が出て、それは市の会計の中で1億2000万より高いのか低いのか、そういう比較をもっと出されてもいいのではないかと思います。両論をやっぱり数字の中でも比較できるような明示をしていただくと非常にいいと思っております。

○委員 今年JA会館が新築になりました。前はすごく古い建物で、やはり新築になった中で職員がみんな生き生き働いています。私はずっと転勤族で、京都や奈良にも行きました。最初は住民票の移動で市庁舎に行くわけです。そうしたときにやっぱり古い建物だと、中で働いている方も何となくくすんでいるというか、活気がないというか。やっぱり新しい建物、きれいな建物に入っている方というのは、やっぱり生き生き見えるのですよね。やはり市の職員さんがプライドを持って働ける環境づくりも大事ですし、新しい建物だったら市民の皆さんもプライドが持てるということだと思いますので、私は新庁舎にされるのは大賛成です。

○委員 今、地方都市は全国的に競争の真っただ中だと思っています。鳥取市は、全国的には1周も2周も遅れている地方都市の一つなのです。この閉塞感を取り戻すために、一つの大きな起爆剤が要するというのと、特例債は時限があり、今決断しなければこれは使えないということ。これを今やらなくていつやるのかと聞きたいですね。私は一番関心を持っているのは、千代水と叶の周辺がにぎわい、中心市街地が空洞化になっていること。二核二軸の構想を十分に発揮して、中心市街地がにぎやかになっていくという夢を持たなければ、鳥取市に合併した甲斐がないと思っています、蛇は脱皮するのにいつもじっとして、その脱皮を自然にやっております。脱皮しなければいけないときは覚悟を決めて脱皮しなければいけないのです。

○委員 この合併特例債というものが目の前になかったら、市庁舎建設というのはまだ先送りになっていたと思います。移転の場所として、駅の周辺にああいう大きな広い空き地があることも幸いしていると思います。この現在地という意見もありますが、その場合は建設の間の事務を進めるための場所が要る、経費もかかるという問題が生じます。あそこの新しいところに新しいものを建てて、でき上がった時点で必要なものを移転すれば便利でいいと感じております。敷地が広いということで、防災ヘリのヘリポートなどもできるのではと思いますし、国道53号と高速道路に近く、本当に交通のアクセスがいい好条件のところだと感じております。ですから、新築移転には賛成です。

中心市街地の問題ですが、シャッターも閉まって空洞化し、高齢化も進んでいるということで、もう商店街ではなくて居住区なのですね。昔の誓文払いが懐かしい、あのにぎわいをもう一度、と思っているのはあの年代の人たちで、今の若い人たちにとっては、若桜街道、智頭街道は行ったこともないし愛着もないという状況になっているはずです。地元の人たちの意見を聞いてみると、静かに暮らしているのでいろんなことをやらう必要はないとおっしゃる方もあります。ですから、中心市街地の活性化と声高に言

われますけれど、本当にどうなのかということを考えてみる必要があると思います。

○委員 正直に言いまして、私はどちらでもいいと思っているのですが、それはあまり市役所を利用しないので実感がないということもあります。一般市民の方がどれぐらいの頻度で庁舎を使われるかはわからないのですが、多く利用される人が行きやすい方がいいのではないかと思います。あとは、絶対信頼できるリーダーが言うことならついていこうと思えるではないですか。だから、勢いや自信を持って、ここがいいという情報を提供すれば、市民もついていけるのではないかと思います。

○清水会長 それでは、この辺で市の方でまとめていただければ。

○竹内市長 今回の市庁舎は、旧市エリアの約 15 万人の市民が多く利用されているという事実はありますが、市議会、市の行政の中核的な機能、休日の窓口業務など、本庁機能は新市域も含めて市民の皆さんに関係があるということを確認しておきたいと思います。

費用の問題など、どの程度の負担で新庁舎ができるのかといった具体的な説明が必要だという御意見がございました。合併特例債などの活用で、20 年間毎年約 1 億 2000 万円の市負担分の返済で建設できると説明しましたが、鳥取市の財政規模は毎年約 850 億から 900 億円ということ、毎年約 200 億の税収があるということ、すでに毎年 100 億から 120 億ぐらいを借金の返済に充てているということもお伝えしたいと思います。つまり、1 億 2000 万というのは現在市が借入れの返済に充てている額の 1%という規模ですし、庁舎建設のために蓄えてきた基金も 26 億円あり、さらに地域振興基金 40 億円もあります。返済すべき 24 億円という額は、今の手持ちのお金を使って十分払えるものですので、市税が上がるとか、返済について市民の皆さんに直接負担をかけるということはありません。そういったことをこれから十分伝えていきたいと思っています。このたび基本計画の素案ができ、ようやくそれが具体的に説明できる段階に入ったと考えております。

この事業は、市民のための市庁舎を建てる事業なので、市民の皆さんの大方の理解と支持をいただかなければいけないと思っています。市民合意をいただきながら進めるために、住民投票ということも議会で検討されています。住民投票が実施されることになれば多くの市民の皆さんに具体的に理解した上で政策選択をしていただけるようにしたいと思っています。そういう意味で我々が努力してこれからも情報発信しなければならぬことがたくさんあると思っていますので、きょうの御意見を参考にしながら、そういったことに誠心誠意努めていきたいと思っています。将来の鳥取市も考えながら、今何ができる、何をすべきといったあたりを十分に検討して、市民の皆さんに情報発信をしていきたいと思っています。

○清水会長 ありがとうございます。では、これで協議の方は終わらせていただきたいと思います。

○松下企画推進部長 本日は大変活発な御議論いただきました。感謝申し上げます。以上をもちまして第 1 回の鳥取市政懇話会を終了します。どうもありがとうございました。